日本保育者養成教育学会

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

第３回研究大会　プログラム

大会テーマ「保育者養成教育学の構築に向けて」

日時：平成 31 年 3 月 2 日（土）

会場：東北福祉大学　仙台駅東口キャンパス

目次

日本保育者養成教育学会　第３回大会の開催にあたって・・・・・・・・・・・・・・・1

大会参加者の方へ

会場までのアクセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

会場案内図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

大会スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

予約・当日申込、クローク、予約弁当、情報交換会などについて・・・・・・・・・・6

研究発表のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

各セッションの紹介

学会企画シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

実行委員会企画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

口頭発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

ポスター発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

日本保育者養成教育学会第３回研究大会の開催にあたって

大会テーマ：「保育者養成教育学の構築に向けて」

日本保育者養成教育学会第３回研究大会
実行委員長　和田明人（東北福祉大学）

日本保育者養成教育学会第３回研究大会は、２０１９年３月２日（土）に宮城県仙台市にある【東北福祉大学仙台駅東口キャンパス】で開催する運びとなりました。
今般の第３回研究大会におきましては、２０１９年４月からの新・養成課程適用の目前の時期ながら、大会テーマを「保育者養成教育学の構築に向けて」と掲げました。

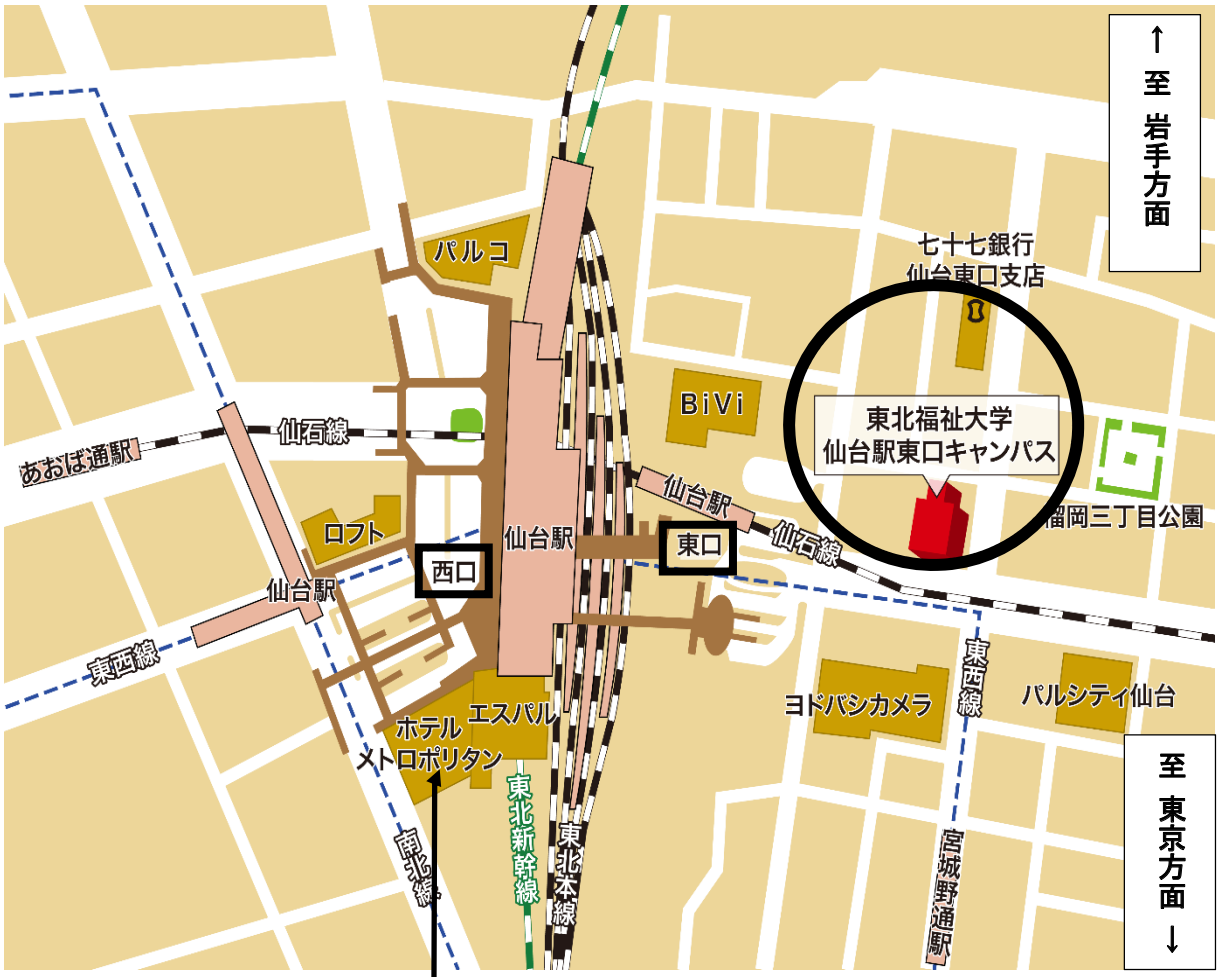
シンポジウムでは、保育学ならびに保育者養成教育の歴史的変遷をもふまえつつ、理論・実践はもとより多様性にも富んだ複眼的視点から福祉・教育等の視座を重ね合わせて、あらためて『保育の不易』にも焦点をあてていただくことで、保育者養成教育学の構築に向けた活発な論議をいただけることと存じます。
また、口頭発表・ポスター発表等の各プログラムでは、保育者養成教育のあるべき姿を探求し続けておられる参加者の皆様が自由かつ闊達な討議を行ない、充実した研究発表の場となるよう実行委員会一同で運営の任にあたって参ります。

今般の大会会場の【東北福祉大学仙台駅東口キャンパス】は、にぎわい創出を期待して新たに整備されたJR仙台駅東口から徒歩２～３分程度の至近距離にあるため、遠方よりお越しのお忙しい方々にも、“楽都仙台”の様々なお楽しみや“みちのく”の観光をご所望の方々にも、とても便利な場所かと存じます。
夕刻からの情報交換会では、諸種の仙台名物をご堪能いただきながら、ご交流を深めていただければと願い、心を込めて諸準備を進めて参ります。

皆様のご参会を心から歓迎し、生産的で開かれた論議が行われることを期待して歓迎の言葉といたします。

大会参加者の方へ

会場までのアクセス



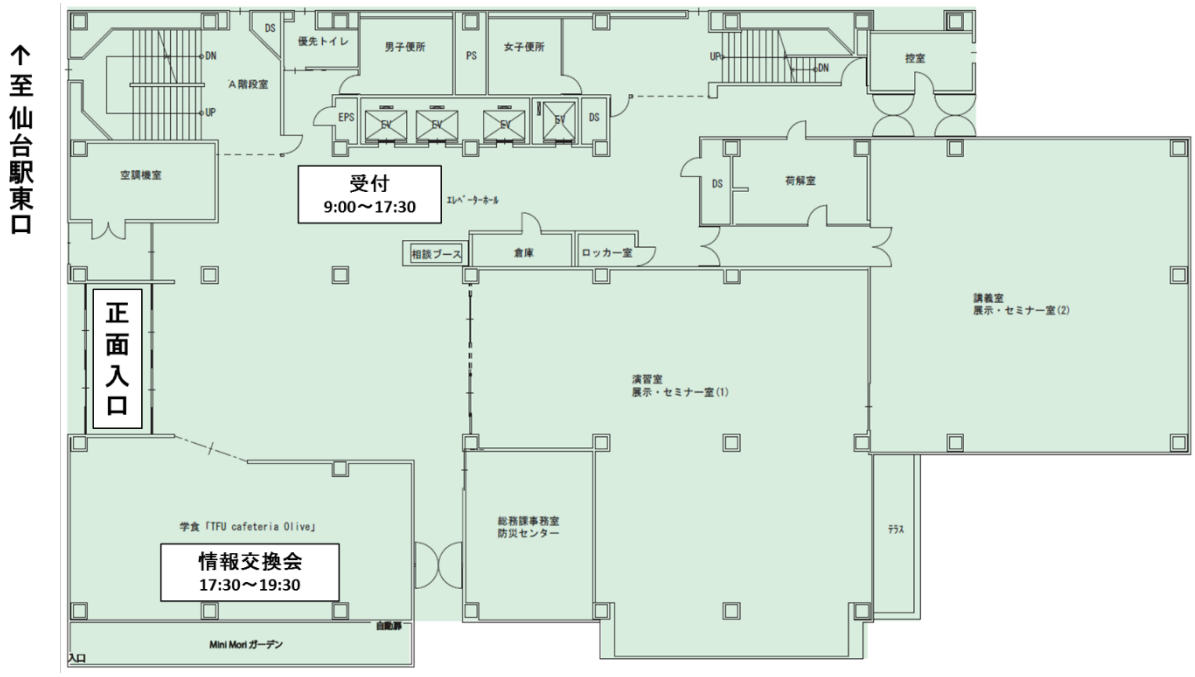
西口側の「ホテルメトロポリタン」です。
東口側「ホテルメトロポリタン イースト」と異なりますので、ご留意下さい。

〇開催日　　2019 年 3 月 2 日（土）
〇会　場　　東北福祉大学　仙台駅東口キャンパス
　　〒983-8511　宮城県仙台市宮城野区榴岡 2-5-26
〇交通アクセス
・ＪＲ仙台駅東口より徒歩３分
（2 階東西自由連絡路から東口へ。宮城野通（正面の広い道路）を進んで左側）
・地下鉄東西線　宮城野通駅北１番出口より徒歩３分
（地下東西自由通路を東口方面へ。「出入り口１」から地上に出てすぐ）

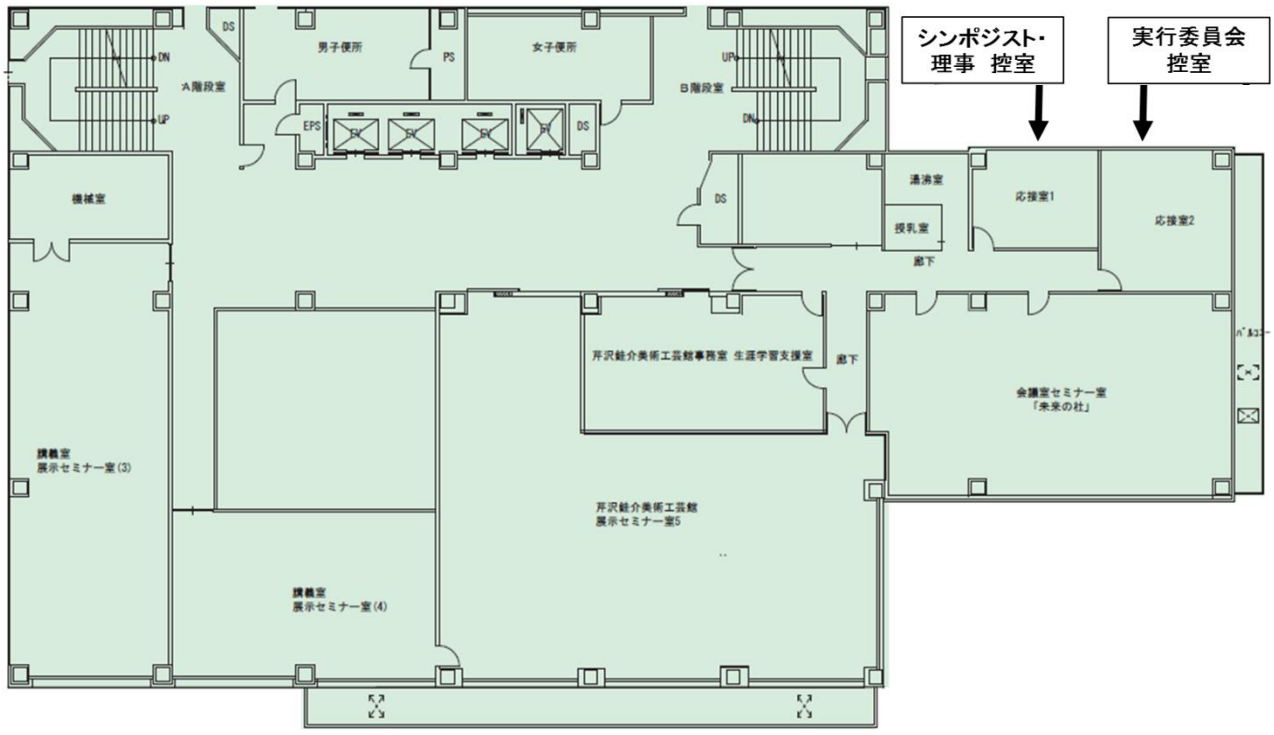
〇駐車場のご用意はございませんので、公共の交通機関をご利用の上、お越し下さい。

会場案内図

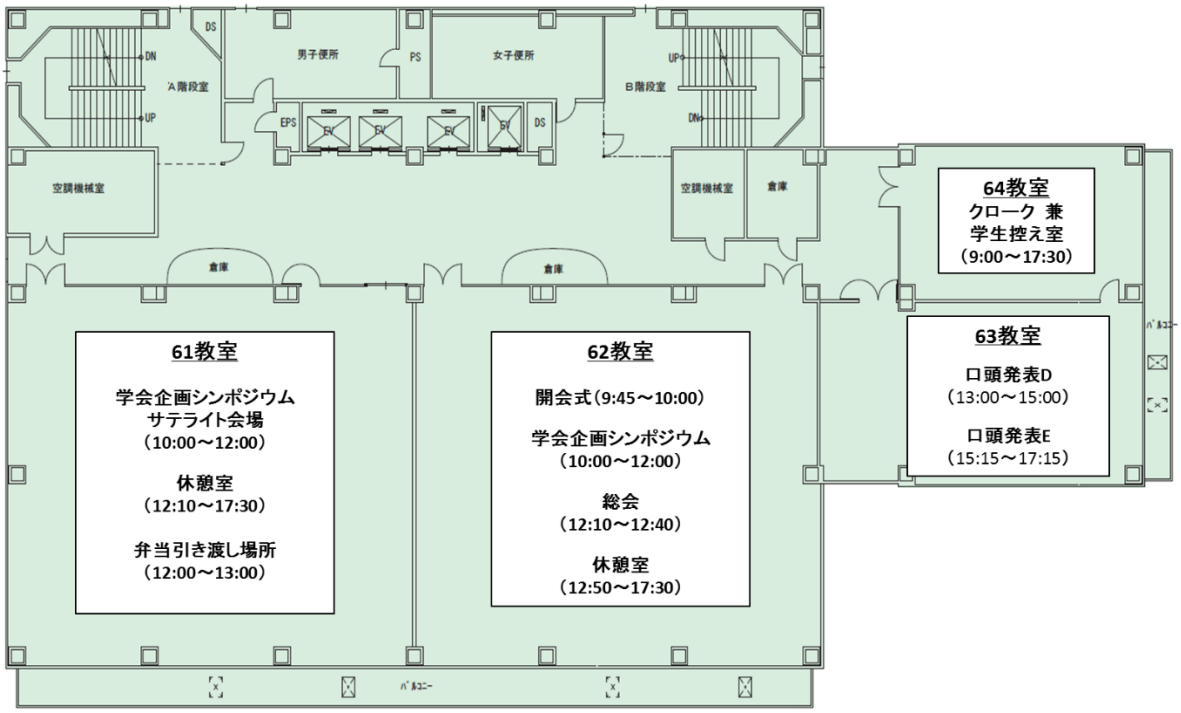
1階　受付・情報交換会



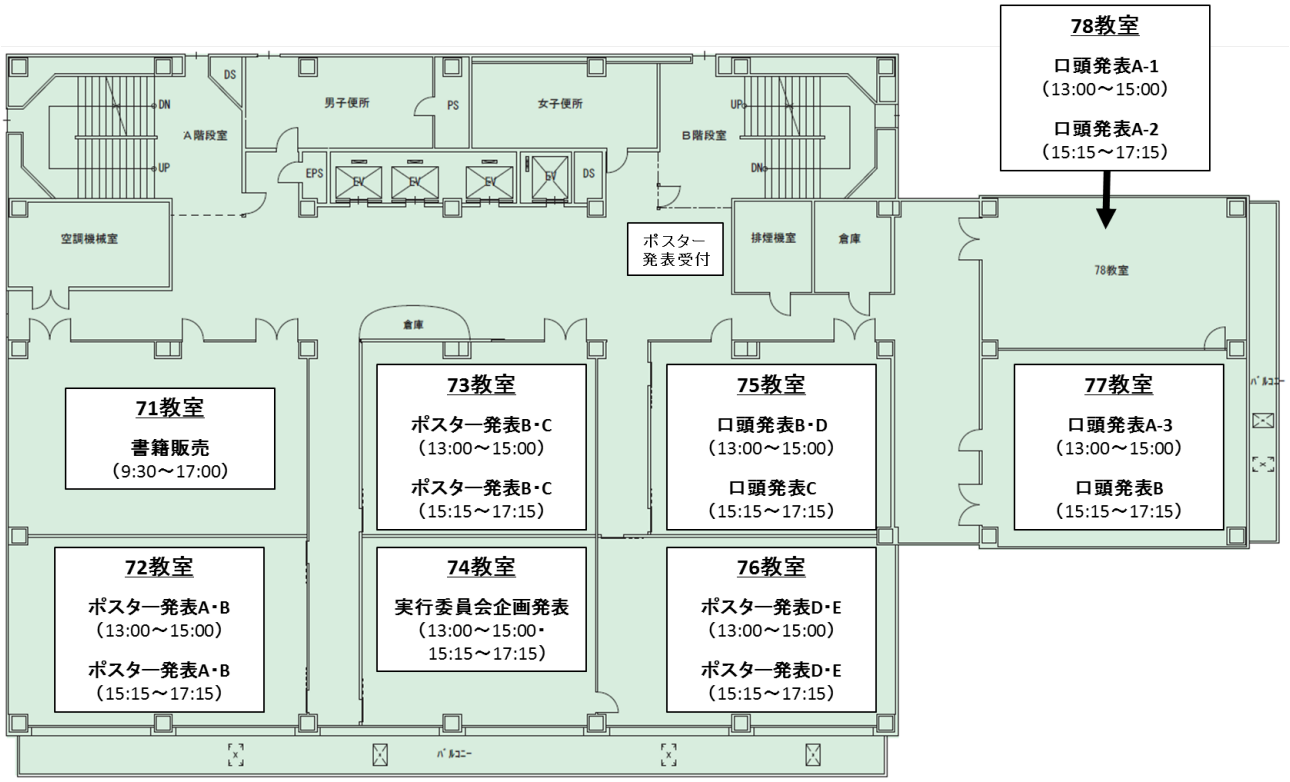
2階　シンポジスト、理事、実行委員会控室



6階　クローク・開会式・学会企画シンポジウム・総会・口頭発表D・E



7階　口頭発表A～D・ポスター発表A～E・実行委員会企画発表・書籍販売



大会スケジュール

時刻	1階 EVホール	6階 64教室	6階 62教室	6階 61教室	7階 78教室	7階 77教室	7階 75教室	6階 63教室	7階 72教室	7階 73教室	7階 76教室	7階 71教室	7階 74教室	2階 応接室1	2階 応接室2
9:00	受付（9:00～17:30）	クローク兼学生控室（9:00～17:30）	9:45～10:00 開会式									書籍（9:30～17:00）		実行委員会控室	シンポジスト・理事控室
10:00			10:00～12:00 学会企画 シンポジウム	シンポジウム サテライト会場											
11:00															
12:00			12:10～12:40 総会	休憩室											
13:00			休憩室		第1セッション （13:00～15:00） 口頭発表A-1（OA01～OA05）	口頭発表A-2（OA06～OA10）	口頭発表B-1（OB11～OB14）	口頭発表D-1（OD15～OD19）	ポスター発表A（PA001～PA014）	ポスター発表B（PB015～PB021）	ポスター発表B（PB022～PB028） ポスター発表C（PC029～PC041） ポスター発表D（PD042～PD054） ポスター発表E（PE055～PE063）		実行委員会企画発表		
14:00															
15:00					第2セッション （15:15～17:15）										
16:00					口頭発表A-3（OA20～OA23）	口頭発表B・D（OB24～26、OD27、28）	口頭発表C（OC29～OC32）	口頭発表E（OE33～OE36）	ポスター発表A（PA064～PA076）	ポスター発表B（PB077～PB084）	ポスター発表B（PB085～PB091） ポスター発表C（PC092～PC104） ポスター発表D（PD105～PD117） ポスター発表E（PE118～PE125）		実行委員会企画発表		
17:00															
18:00															

○情報交換会は、17:30～19:30 の間、1 階「Cafeteria Olive」で行います。

○ポスター発表について

・発表は、第 1 セッション（13:00～15:00）、第 2 セッション（15:15～17:15）の 2 セッション制です。

・第 1 セッションと第 2 セッションの間の休憩時間（15 分）に、ポスターの貼り替えを行います。そのため、第 1 セッションの発表者は、15:00～15:05 の間にポスターを外し、第 2 セッションの発表者は、15:10 までにポスターを掲示して下さい。
短い時間で大変恐縮ですが、ご協力を宜しくお願い致します。

・在席責任時間（60 分）は、いずれのセッションも、発表 ID が奇数番号の方が前半 1 時間、偶数番号の方が後半 1 時間となります。

大会に参加される皆様へ

1. 予約申込者

予約申込の方は、受付にて大会参加証（兼　領収書）と要旨集をお受け取り頂いた後、大会参加証に必要事項をご記入下さい。大会参加証は、**本大会参加者と認識できるよう必ず身につけてご参加下さい**。

2. 当日参加申込者

当日参加申込の方は、受付にて参加申込用紙に必要事項をご記入頂き、当日参加費を添えてお申し込み下さい。

〈受付時間〉　9:00～17:30

〈当日参加費〉　6,000 円（会員）、6,500 円（非会員）

3. クローク

6 階 64 教室にて、お荷物をお預かりします。お預け頂くお荷物には、貴重品を含めないようにお願い致します。利用時間は、9:00～17:30 です。情報交換会にご参加なさる方は、情報交換会開始前にお荷物をお受け取り下さい。

4. 予約弁当の引換

12：00～13：00 の間、6 階 61 教室にて引換を行います。

※ 周辺には飲食店、コンビニエンスストアがございます。建物 1 階の「Cafeteria Olive」も当日営業致します。

5. 情報交換会

17:30～19:30 の間、1 階「Cafeteria Olive」にて行います。

6. シンポジウム等の録音・録画・撮影

シンポジウム等の録音・録画・撮影につきましては、著作権および肖像権の保護のため、企画者（司会者）より許可する旨のアナウンスがある場合を除き、ご遠慮下さい。

7. その他

・館内は全館禁煙となっております。ご理解とご協力をお願い致します。

・会場内でコピー機、フリーWi-Fi をご利用頂くことはできませんので、予めご了承下さい。

研究発表のご案内

【研究発表の成立条件】

①ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「要旨集への要旨の掲載」の３条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければならず、なおかつポスターは所定の時間掲示されなければなりません。
②口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「要旨集への要旨の掲載」の３条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者は分科会終了前に退席することはできません。
③発表者は、分科会開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければなりません。
④研究発表の際、筆頭発表者は必ず分科会に出席しなければなりません。
⑤研究発表の際、原則として連名発表者全員が分科会に出席しなければなりません。
⑥筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者となることができます（筆頭発表者の交代）。座長への届け出なしでの取り下げおよび交代は無効です。

＊以上に反することが確認された発表は、『発表取り消し』となる場合があります。

口頭発表

1. 発表時間は、発表者 1 人につき発表時間 12 分、質疑応答 3 分の 15 分となります。なお、セッション中のすべての発表終了後、30 分の討論時間があります。
2. 発表機器の持ち込みは原則としてできませんので、会場備え付けの PC をご利用下さい。発表用データは USB に入れてご持参頂き、セッション開始時間の 15 分前までに発表会場へ行き、USB から会場 PC へデータを移して下さい。
   なお、使用するメディアやファイルは事前にウイルスチェックを済ませて下さい。
3. 会場の PC は Windows10、PowerPoint は 2016 形式です。
4. 座長等の指示のもと、発表順に従い、口頭発表を行います。
5. 配布資料がある場合は、必要部数（おおよそ 50 部程度）を各自で事前にご用意下さい。また、配布も各自でお願いします。会場内でコピーはできませんので、あらかじめご了承下さい。

ポスター発表

1. ポスター発表は、7 階 72 教室、73 教室、76 教室にて、2 セッション制で行います。
2. パネルの大きさは、縦 180cm、横 90cm です。
3. ポスターの最上部には発表題目、発表者の氏名、所属を大きく記載して下さい。本文の文字の大きさは特に指定ありませんが、ポスターから離れた位置（約 2m）からでも読める大きさにして下さい。
4. 責任発表者は、セッション開始 15 分前までに、7 階エレベーターホールのポスター発表受付にお越し下さい。
5. セッション開始 5 分前までに、発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼って下さい。
   なお、第 1 セッションと第 2 セッションの間の休憩時間（15 分）に、ポスターの貼り替えを行います。そのため、第 1 セッションの発表者は、15:00～15:05 の間にポスターを外し、第 2 セッションの発表者は、15:10 までにポスターを掲示して下さい。短い時間で大変恐縮ですが、ご協力を宜しくお願い致します。
6. 割り当てられたセッション中（2 時間）ポスターを掲示し、かつ、「在席責任時間（60 分）」（いずれのセッションも、発表 ID が奇数番号の方が前半 1 時間、偶数番号の方が後半 1 時間）の間、発表者はポスター掲示場所に在席し、質疑に応じることが求められます。それぞれの在席責任時間中に、座長が責任発表者の在・不在を確認します。
7. 責任発表者が欠席した場合、および在席責任時間中に在席が確認できなかった場合は、原則「発表取消」となります。ただし、連名発表者がいる場合は、申請のうえ、連名発表者の 1 人を責任発表者に変更することができます。なお、責任発表者になるのは 1 人 1 回に限りますので、他の発表の責任発表者になっている方は変更することはできません。責任発表者の欠席、変更などについては、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該発表の 30 分前までに受付にお申し出下さい。
8. 配布資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意して下さい。また、配布も各自でお願いします。会場内でコピーはできませんので、あらかじめご了承下さい。
9. 掲示したポスターは、セッション終了後 5 分以内に外して下さい。次の発表予定者の準備時間を確保するために、終了 10 分を経過しても掲示したままのポスターは取り外し、処分しますのでご了承下さい。

日本保育者養成教育学会　2018 年度総会　プログラム

１．2018 年度事業報告

①理事会の開催（3 回）

②『保育者養成教育研究第 3 号』編集委員会の開催（3 回）

③ニューズレターの発行

④第 3 回研究大会の開催　2018 年 3 月 2 日（土）

東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

２．2018 年度決算報告

３．2019 年度事業計画

①理事会の開催

②『保育者養成教育研究第 4 号』編集委員会の開催

③ニューズレターの発行

④第４回研究大会の開催　2020 年 3 月 1 日（日）　（広島県福山市）

⑤その他

４．2019 年度予算案

各セッションの紹介

学会企画シンポジウム
「保育者養成教育学の構築に向けて」

企　　画：日本保育者養成教育学会
話題提供：東　義也（尚絅学院大学教授）
　　久保健太（関東学院大学専任講師）
　　日景恭子（秋田県大館市福祉部子ども課）
司　　会：椛島香代（文京学院大学教授）

【企画趣旨】

<椛島香代>

保育者の職務内容の深化、広域化に伴い保育者養成の課題はますます増大している。また、2019 年度より幼稚園教員養成課程、保育士養成課程双方が新課程となり、保育者養成校には新たな取り組みも求められている。養成校では単に方法論だけではなく、乳幼児に対する深い愛情と理解、幼児教育理念など保育者としての人間性を涵養することも重要であろう。限られた時間の中で保育者としての資質・能力として何をどのようにどれだけ育てるべきか、養成校教員の一人として悩みは尽きない。保育者養成教育はどうあるべきなのか、改めて問い直したい。

シンポジウムでは、幼児教育学、保育者養成の立場から東　義也氏、久保健太氏にお話いただき、保育現場で現職を育てておられる立場から日景恭子氏に今の保育現場に求められる専門性等をお話いただく。フロアからも日頃の保育者養成についての課題や悩みを出していただき互いに保育者養成教育についての理解を深め、今後の養成に活かす機会となればと考えている。

【話題提供】

<東 義也>

再課程認定の手続きは終わりましたが、それと学生募集は全く別です。尚絅は一年中募集活動をしています。東北の進学率はまだ都会ほど高くないので、生徒たちの進学意欲と学費の問題次第では、受験生を発掘できる可能性があるそうです。

しかし、入学者を得ても学生指導がまた大変です。多様な支援を必要とする学生が少なくないし、実習指導に困難を覚えている養成校は多いでしょう。教員はいつもくたくたで、本業の研究はおろか授業の準備もままならない状況だと思います。

尚絅学院大学は、子ども学科を作っとき幼・保・小の資格取得を可能にしました。しかし、三資格とっても一般企業に就職する人がいます。これをどう考えたらいいでしょうか。

新しい保育所保育指針が施行されています。色々と問題を感じている教員は少なくな

いでしょう。私は、養成する教員の保育観が今問われていると思います。例えば、「ねらい」の定義が「…子どもが身に付けることが望ましい心情、意欲、態度」から「保育を通じて育みたい資質、能力」と書き換えられました。「できる」「わかる」といったことを見える化して、それが達成目標になってしまうのではないかと心配です。乳幼児期の子どもの発達を「能力」と捉えるのは妥当なのでしょうか。

保育の英訳は、early childhood care and education です。養護と教育、それは福祉と教育を一体化した営みと言えます。単純に未満児は養護ないし保育、以上児は教育と分割できるものではありません。人間はいくつになっても安心感や存在感が必要であり、他者との信頼関係を基盤にして初めて教育は意味をもって成立すると思うのです。

最後に、教える・育てるという語の語源はラテン語の educo だそうです。本来は引き出すという意味ですが、大人が子どもの力、可能性を引き出すだけでなく、子どもも大人の力を educo する。つまり保育者は子どもから力を引き出される、保育者として成長させられるのです。子どもから教えられる、子どもから学ぶという現象のない保育園や大学は、教育の現場として十分ではないのではないでしょうか。保育者養成教育学の根本を問い直してみたいと思います。

<久保健太>

私のゼミでは、月に一度、保育の現場に足を運びます。学生たちはナマの保育に驚き、心を揺さぶられます。その驚きを保育者に直接伝えたり、学生同士で語り合ったりします。さらには、その驚きを何とか言葉にしようとして、本を読みます。いつのまにか、自分の中の保育観が編み直され、その保育観を語るための言葉が身についています。

このような保育者養成の土台には「学びとは、単に知識を覚えることではなくて、葛藤を通じて、自分の生き方を自ら選ぶことだ」という学習観があります。自分の生き方をみずから選ぶとき、人は必死になって目の前にある現実を理解しようとします。現実に対処するための手立てを編み出そうともします。その結果、知識が増え、技術が身につきます。そこに学びがあります。

この学習論は、5 つの教育理論が混じり合って生まれたものです。「ちがう」もの同士が「かかわる」ことでみずから「かわる」。これは大田堯の学習理論です。人間には共振欲求と自己発揮欲求の両方があります。共振ばかりを大事にして、どうしても窮屈になったら、自己発揮をすればいい。その結果、共振が壊れたとしても、もう一度、つくり直せばいい。それが「ちがう」もの同士が「かかわる」ということです。そこには共振欲求と自己発揮欲求との間での葛藤があり、共振と自己発揮の繰り返しがあります。その葛藤の繰り返しの中で、共振と自己発揮を両立させるための手立てを編み出す。そうして、自分という人間を太くし、人間関係を太くしていく。それが「かわる」ということです。

共振と自己発揮を両立させるためのポイントは「目的の共有」と「アイデアの出し合い」にあります。これは、エティエンヌ・ウェンガーの組織論です。アイデアの出し合いは、メ

ンバー同士の「教えて」から始まります。「教えて」を言えるのは「応答してくれる」という基本的信頼があるからです。この信頼をもとに自己決定し、自己決定を土台に自分（たち）の世界をつくり、自分（たち）の世界をつくるために道具を獲得します。これはエリク・H・エリクソンの発達論です。また、葛藤を通じた知識や技術の獲得はユーリア・エンゲストロームの学習論を、「驚き」から始まる学びは矢野智司の教育理論を、それぞれ参考にしています。それらの理論を紹介しながら、話題提供をしたいと考えています。

<日景恭子>

秋田県大館市は県の北部に位置し、人口は７２，６３２人（平成３１年１月１日現在)、前年度より１，００９人も減少している将来消滅可能都市に挙げられている市であるが、ここ数年待機児童が発生しており、その要因の一つに深刻な保育士不足が挙げられている。

公立保育園も保育士数がギリギリのところで長時間の保育を運営しているため、本来であれば丁寧に育てていくことが望まれる新人保育士に、４月スタートからクラス担任という即戦力を求めざるを得ないのが現状である。「何が何だかわからない。何を相談したら良いのかもわからない。」新人保育士にとっても苦しい始まりになってしまっている。また、受け入れ側の園長や主任保育士も新人ということでできるだけサポートしようとしてはいるが、保育より前に『社会人として仕事に就く』ことへの意識に個人差がありすぎ、保育の基本だけでなく勤務するにあたっての当たり前と思うことを一人一人に丁寧に伝えていかなければいけないと困惑している声も聞こえてきている。

このような現状を踏まえ、今後もし可能ならば学生の時に望まれる体験等について２つの視点から考えてみた。

① 様々な実践の積み重ね

・実際に保育してみて、その様子を学生同士で見合い、その後ワークショップ形式などで子どもの育ち、関わり方、環境の構成などについて振り返り、話し合う経験や考え方の学びの機会と充実。

・一人の子どもの様子を複数で見て、エピソード記録等を書いてみて、それをもとに話し合ってみるなど「子ども理解」を考える機会の提供。

・様々な教材を使って実際に遊んで考える教材研究体験の積み重ね。

② 社会人としての意識付け

・生活環境、育ちの違い、一般常識への認識の違いなど個人差が幅広いことを踏まえた、学生一人一人へのより細やかな対応や働きかけ。

・組織として、チームとして動いていくためのコミュニケーション力・社会実践力を身に付けられる活動参加への推奨。

保育現場で改善できることも考えながら、保育士を目指して学んできた学生が、子どもの育ちに喜びを感じながら、保育士という仕事に誇りをもって、長く従事してもらいたいと願っている。

3月２日（土）13：00～17：15　会場：７４教室（７Ｆ）

実行委員会企画
「ＯＳＴからＰＢＬ、そしてＡＬへ」

企　画：日本保育者養成教育学会第３回研究大会　実行委員会
責任者：実行委員長　和田明人（東北福祉大学）
進　行：橋本日菜（東北福祉大学教育学部教育学科３年生）

企画趣旨

保育者養成教育における新規的・独創的な取り組みの実践例（ＰＢＬ、ＡＬ等）について、まずは口頭発表形式で、続いてポスターセッション形式でもプレゼンテーションを行い、参加者が任意の発表に自由に参加・討議できるようにします。

具体的には、“オープンスペース・テクノロジー（ＯＳＴ）”によって発足した学生プロジェクト（ＰＢＬ）による東北福祉大学保育者養成課程のアクティブ・ラーニング（ＡＬ）の数々と、学びの一端をご紹介します。

なお、この企画においては、基本的に保育者養成教育の当事者である学生により発表・運営等を行うこととします。

☆“オープンスペース・テクノロジー（ＯＳＴ）”によって発足したＰＢＬとは？

“オープンスペース・テクノロジー（以下,略して《ＯＳＴ》と言います）”とは、重要な課題等について関係者を一堂に集めて、参加者が解決したい課題や議論したい課題を自ら提案し、自主的にスケジュールを決めて話し合いを行う会議の手法です。参加者の当事者意識と自己組織化能力を最大限に引き出すことにより、参加が納得できる合意に到達できるようにするところに最大の特徴があるとされています。

東北福祉大学保育者養成課程では、３年生の保育所実習終了後の１０月頃から《ワールド・カフェ》や《AI；アプリシエイシブ・インクワイヤリー》等の大規模型対話技法を用いて対話や発議を重ね、後期実習指導がすべて終わりになる頃に、すなわちいよいよ最終学年の４年生になる目前の時期に《ＯＳＴ》を行います。

《ＯＳＴ》では、３年生全員が教室の中でサークル状になり、その中心で担当教員から「今まで約３年の間、保育のいろんな学びをやってきたけれど、この後残された時間で、どのように自分たちで自分たちのためになるどんな保育の学びをしたいか？みんなで考えてみてくれ！」と、問いかけられます。突然の切り出しに最初は戸惑いますが、徐々に触発されたメンバーがそれぞれ自発的にアジェンダを出し合い、自主的に集まり始め、企画に賛同したメンバーがアクションチームとしてのプロジェクトを結成し、“勝手連”的に〈やりたいメンバーが自分たちで課題に取り組む保育の学びチーム〉としていろいろな活動や学びに取り組み始めます。

これにより、テーマも、内容も、参加自体も、学生の自由意思で行う学生主体型のＰＢＬ（Project-Based　Learning）が創出されます。

☆Teaching Others

主体的かつ能動的に学習に取り組み、組織での活動や自らの実践が必要となるような学習プログラム、つまり自ら問題を発見し解決する能力を養うこと等を目的として組織的に行う教育法がＰＢＬですが､東北福祉大学保育者養成課程においては､近頃、各種の学生プロジェクトにより、学生が学生に対してレクチャーやワーク等の授業を行うという授業スタイル、いわば「Teaching Others」を実践しています。

「Teaching Others」スタイルで授業を行うということは、他者に教えるということになるため、より正確な理解や知識が求められ、学生は通常の授業の学習より何倍も勉強する必要があります。たとえば、教科書等は到底一冊だけで済むはずもなく、何十冊も読み込まなくてはなりませんし、現場へ出向いて調査やインタビュー等も行うことにもなります。また、これは、一人だけの作業や準備ではとても成しがたいため、自ずと対話力や同僚性・協働性なども求められることとなります。

東北福祉大学保育者養成課程では、こうした手間のかかる「Teaching Others」をやり遂げられたとしても、単位にもならず評価も点けられません。つまり、大学や他者から何かをいただける見返りのようなものは一切なく、あるのは自己実現のみです。

これらの取り組みにおいて、なにより必要なのは、“自分たちで”という主体性や、“自分たちから”という能動性です。

◇実行委員会企画　スケジュール

○第１セッション　口頭発表　　１３：００～１５：００　　会場；７４教室（７Ｆ）

発表Ⅰ･･･ミシュラン・プロジェクト
発表Ⅱ･･･発達プロジェクト
発表Ⅲ･･･環境プロジェクト
発表Ⅳ･･･出稼ぎプロジェクト　　※１発表２０分（質疑応答は別途５分）

○第２セッション　ポスター発表　　１５：１５～１７：１５　　会場；７４教室（７Ｆ）

前　半　１５：１５～１６：１５

発表Ⅰ･･･ミシュラン・プロジェクト
発表Ⅱ･･･環境プロジェクト

後　半　１６：１５～１７：１５

発表Ⅲ･･･発達プロジェクト
発表Ⅳ･･･出稼ぎプロジェクト

発表プロジェクト

Ⅰ　ミシュラン・プロジェクト

保育現場に赴いて“ECERS-E”“ITERS-R”“SSTEW”などの評価指標を用いて［保育の質評価］を実践し、その過程で得られた学びを基に保育系学生向けに独自の【就活ガイドライン】を策定するなど数々の実績を残し、質の高い保育を希求し続けて、ここ数年、代々受け継がれて進化し続けているプロジェクトです。

今年度のメンバーは、保育実践方法のあるべき姿を具体的かつ詳細に文言化・明示化した【保育実践ガイドライン（乳児版）】を作成しています。

Ⅱ　発達プロジェクト

４年生となり、保育者になる目前の一年間で「子どもの発達をしっかりと勉強し直し、保育者のスタートに備えたい。そして、その成果を同僚や後輩にも還元したい」と望んだメンバーが集まり、乳幼児における発達の順序性等に関する基本を一から学び直して集積し、学生が使いやすいコンテンツとして作成・配信しているプロジェクトです。

今年度から毎回の実習指導において、このプロジェクトの学生により「Teaching Others」スタイルで『子どもの発達』に関するレクチャー及び小テストを実施するなど、学生同士の学び合いを主導しています。

Ⅲ　環境プロジェクト

「環境を通して行う」保育の実践事例や、ドキュメンテーションを学生自らが集積し、成果を他の学生にも還元することで『保育における環境』への理解を深める学び合いの技法を保育者養成課程の段階で習得し、保育者として着任後も園内研修等でその技法を適用できるようになることを目指して発足したプロジェクトです。

発達プロジェクトと同様に毎回の実習指導において、このプロジェクトの学生により「Teaching Others」スタイルで『保育における環境』に関するレクチャー及びワークを実施するなど、学生同士の学び合いを主導しています。

Ⅳ　出稼ぎプロジェクト

東北から首都圏の保育現場に保育補助のアルバイトとして最低数日間は滞在し、旅費をも負担してもらって、まさに保育の“出稼ぎ”を行います。実習とは本質的な意味は異なるものの、結果的には地方の学生としての就活費用、就職先との出会いや見極め、そして実践からの学びなど、成果は多岐にわたります。

メンバーは、首都圏の保育事業者や仲介業者と学生のつなぎ役を果たしながら、自らもたくさん“出稼ぎ”に赴き、保育の学びと就活とを併行しながら活動を展開しています。

※以上は、東北福祉大学保育者養成課程における PBL プロジェクトの一例です。

以　上

口頭発表A-1 保育者の専門性など

13:00～14:45 78教室
座長:矢藤誠慈郎・大橋喜美子

時刻	発表ID			
13:00	OA01	「協働型」園内研修論における知識観と保育者の専門性観の抱える問題	大阪府立大学 東京大学大学院生 日本児童教育専門学校	○吉田 直哉 鈴木康弘 安部高太朗
13:15	OA02	お互いの保育を見合う園内研修の試み（2） ―ワイヤレスマイク・ビデオによって俯瞰的に保育を捉える取り組みから―	東洋大学	高橋健介
13:30	OA03	新任保育者の仕事に対する気持ちとレジリエンスの関係	岡崎女子短期大学	渡部努
13:45	OA04	保育者・子ども・保護者を大事にする園運営 ―園長・管理職へのインタビューから見えてきたこと①―	茨城キリスト教大学 常磐短期大学 茨城大学	○中島 美那子 木村由希 神永直美
14:00	OA05	園長による主任保育者選定の視点 ―H 保育所 ,D 保育所 ,C 幼稚園の事例―	中村学園大学短期大学部	櫻井裕介

討論14:15～14:45

口頭発表A-2 保育者の専門性など

13:00～14:45 77教室
座長:高橋貴志・三浦主博

時刻	発表ID			
13:00	OA06	産学連携と保育者養成 ―現場と学校で学生を育てる試み―	日本児童教育専門学校 日本児童教育専門学校 日本児童教育専門学校	○阿久津摂 中西和子 鈴木八重子
13:15	OA07	保育士の意欲・主体性を促進する環境要因の検討 ―現職保育士へのインタビュー調査からみる養成校の課題―	大阪千代田短期大学 東大阪大学 大阪府立大学大学院人間社会学研究科 至学館大学	○寄ゆかり 今井美樹 原純子 時安和行
13:30	OA08	病棟保育と医療経済学研究 ―医療保育領域における医療経済学の必要性について―	宮城誠真短期大学	小玉幸助
13:45	OA09	保育者養成校における学生の AED に対する意識	東北生活文化大学短期大学部生活文化学科	伊藤常久
14:00	OA10	保育者養成校における食物アレルギー教育の現状	愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学	○朴賢晶 田村佳世

討論14:15～14:45

口頭発表B-1 保育内容と方法、授業研究など

13:00～14:30 75教室
座長:内藤知美・請川滋大

時刻	発表ID			
13:00	OB11	保育者養成校における歌唱 ―学生の歌唱に関する意識調査を通して―	小田原短期大学	前田奈緒
13:15	OB12	保育者養成校における入学前ピアノ課題の提示	帝京短期大学	室井眞紀子
13:30	OB13	保育における音楽教材 ―増子としの幼児音楽観を通して―	頌栄短期大学 頌栄短期大学	○関田良 布村志保
13:45	OB14	学生主導による表現活動を中心とした授業構成の事例	仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学	○仁藤喜久子 千凡晋 四家昌博

討論14:00～14:30

口頭発表D-1 授業研究など

13:00〜14:45 63教室
座長:那須信樹・小坂徹

時刻	発表ID			
13:00	OD15	身近な地域・施設の情報に関する授業実践と効果	北翔大学短期大学部	菊地達夫
13:15	OD16	ドキュメンテーション作成における学生の資質向上のあり方 ―保育者養成校における試みの一考察―	常磐会学園大学 常磐会学園大学	○岡（宮薗）美佳 坂口静子
13:30	OD17	学生が活動する授業 ―乳児期の絵本へのアプローチ―	頌栄短期大学	布村志保
13:45	OD18	「障害児保育」における視聴覚教材を用いた講義の理解度に関する研究 ―個別の指導計画の作成、記録及び評価における試み―	富山国際大学 富山短期大学	○河﨑美香 明柴聰史
14:00	OD19	保育者養成課程における「子どもの保健Ⅱ」の授業内容の検討	大原学園和歌山校	髙橋三恵

討論14:15〜14:45

口頭発表A-3 保育者の専門性など

15:15〜16:45 78教室
座長:脇信明・和田上貴昭

時刻	発表ID			
15:15	OA20	保育者が幼児達と関わる集団実践理論の必要性（1） ―「個の幼児理解」を前提とする現行の保育理論を問う―	東京学芸大学 東京都市大学 認定こども園あかみ幼稚園 認定こども園あかみ幼稚園	○小川博久 岩田遵子 中山昌樹 中田幸子
15:30	OA21	保育者が幼児達と関わる集団実践理論の必要性（2） ―個別的・言語的関与傾向の強い保育実践例の分析を通して―	東京都市大学 東京学芸大学 認定こども園あかみ幼稚園 認定こども園あかみ幼稚園	○岩田遵子 小川博久 中山昌樹 中田幸子
15:45	OA22	VR を用いた保育場面観察時における気づきの認知学習プログラムの可能性	東海学園大学教育学部	水落洋志
16:00	OA23	創造力を促す歌を活用したドラマ活動	帝塚山大学	日笠みどり

討論16:15〜16:45

口頭発表B・D 保育内容と方法、授業研究など

15:15〜17:00 77教室
座長：小原敏郎・福田真一

時刻	発表ID			
15:15	OB24	クラスにおける子どもの主体性はいかに確立されるか③ 〜4歳児後半期にみられる保育者から子どもへの役割移譲の過程〜	名古屋学芸大学 美和こども園 東京学芸大学名誉教授 東京都市大学 美和こども園	○吉田龍宏 伊藤早穂 小川博久 岩田遵子 山田祥子
15:30	OB25	保育の見える化 ―連絡帳と保育記録から―	悠愛保育園	東方珠美
15:45	OB26	保育現場におけるリサイクル素材の利用実態に関する研究 ―段ボール素材を中心に―	高田短期大学 高田短期大学 高田短期大学	○青木信子 長倉里加 林韓燮
16:00	OD27	布を用いた表現遊びにおける身体的感性の萌芽 ―保育園での身体表現ワークショップを事例に―	茨城女子短期大学	国府田はるか
16:15	OD28	保育科学生の文章に見られる問題点とその対応 ･･･ 保育者に必要な注意力と想像力の低下を中心に ･･･	育英短期大学	佐藤達全

討論16:30〜17:00

口頭発表C 保育実習・教育実習、実習指導など

15:15〜16:45 75教室
座長：石井章仁・椛島香代

時刻	発表ID			
15:15	OC29	保育実習におけるトランスジェンダーの学生への対応に関するアンケート調査報告から 〜保育者養成校における多様な性への対応が進まない要因〜	姫路大学 NPO 法人育ちあいサポートブーケ	○濱田格子 藏原亜紀
15:30	OC30	保育実習日誌から読み解く養成校学生の学びプロセス	名古屋市立大学 愛知みずほ短期大学 至学館大学	○上田敏丈 加藤望 松山有美
15:45	OC31	幼稚園教諭における実習指導の実態について	神戸女子短期大学	川村高弘
16:00	OC32	子ども主体の部分実習を実践するための一考察 ―実習生が対応する範囲の明確化―	植草学園大学	栗原ひとみ

討論16:15〜16:45

口頭発表E 地域子育て支援、保育をめぐる今日的課題など

15:15〜16:45 63教室
座長：爾寛明・目良秋子

時刻	発表ID			
15:15	OE33	妊娠から始まるあらゆる子どもと保護者の支援を可能にする支援者養成に関する一考察 ―精神保健福祉士と保育者の果たし得る役割と専門性―	川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科	○橋本勇人 中川智之 橋本彩子 松本優作
15:30	OE34	カトリック系保育所・幼稚園等における保育・教育理念の特色	東京大学大学院生 大阪府立大学 日本児童教育専門学校	○鈴木康弘 吉田直哉 安部高太朗
15:45	OE35	神道系保育所・幼稚園等における保育・教育理念の特色 ―九州における全国神社保育団体連合会加盟園のウェブサイト分析から―	日本児童教育専門学校 大阪府立大学 東京大学大学院生	○安部高太朗 吉田直哉 鈴木康弘
16:00	OE36	仏教保育における「仏教行事」と「年間行事」	駒沢女子短期大学	岡本啓宏

討論16:15〜16:45

ポスター発表A 保育者の専門性など

13:00〜15:00 72教室
座長:上村裕樹・音山若穂

発表ID			
PA001	早朝・延長保育担当保育士の質の向上に関する一考察（1） ―保育士アンケートの結果より―	名古屋経済大学 名古屋経済大学 犬山市役所	○関谷みのぶ 堀美鈴 小島千枝
PA002	早朝・延長保育担当保育士の質の向上に関する一考察（2） ―ビデオ研修を通して―	名古屋経済大学 名古屋経済大学 犬山市役所	○堀美鈴 関谷みのぶ 小島千枝
PA003	保育の質の保証としてのチーム保育のあり方について	桜美林大学 いるま保育園	○爾寛明 小川勝利
PA004	保育実践における「行為の中の省察」とその過程 ―ケースメソッド教育を応用して―	東京保育専門学校	髙木麻美子
PA005	実践力を涵養する保育者養成プログラムの開発（1） ―インターンシップを中心に―	玉川大学教育学部 玉川大学教育学部 玉川大学教育学部 玉川大学教育学部 玉川大学教育学部 玉川大学教育学部	○田澤里喜 大豆生田啓友 宮崎豊 渋谷行成 岩田恵子 鈴木美枝子
PA006	附属幼稚園との連携を通した保育者養成について ―保育者効力感の変化における観点から―	園田学園女子大学人間教育学部児童教育学科 箕面学園福祉保育専門学校保育科	○田窪玲子 谷真弓
PA007	短期大学保育科学生の学外実習についての学習観	山梨学院短期大学	中野隆司
PA008	保育者養成校における学生の学修成果に関する検討 ―学生の成長実感から―	鶴川女子短期大学	中村麻衣子
PA009	保育学生のレジリエンスと学校生活における不安の変化について	秋草学園短期大学	大熊美佳子
PA010	保育士養成課程における 0 歳児の食に関する学びの検討 ―0 歳児担当保育士を対象とした質問紙調査の結果から―	昭和女子大学 武蔵野短期大学 和洋女子大学	○遠藤純子 小野友紀 池谷真梨子
PA011	保育者の食育実践に必要な指導力について（3） ―食育研究者対象のインタビュー調査から―	相愛大学 相愛大学	○進藤容子 中井清津子
PA012	「現代教育課程への一考察 (その 2)」 ―フレーベル「ブルクドルフのヴァイゼンハウゼにおける学園の公示」との比較を通して―	園田学園女子大学短期大学部	馬場住子
PA013	学生の子育て支援ひろばの役割理解（1） ―保育ボランティア回数の経験による学びの変化―	高田短期大学 園田学園女子大学	○鷲見裕子 藤重育子
PA014	学生の子育て支援ひろばの役割理解（2） ―子育て支援力の捉え方についての質的変化―	園田学園女子大学 高田短期大学	○藤重育子 鷲見裕子

ポスター発表B 保育内容と方法、授業研究など

13:00～15:00 72教室
座長：上村裕樹・音山若穂

発表ID			
PB015	「日本語特有である擬音語,擬態語による感性豊かな表現を育む」 ～絵本の読み聞かせによる環境から生まれる効果について～	大庭学園ソーシャルワーク専門学校 沖縄キリスト教短期大学	○小禄朝也 照屋建太
PB016	保育者養成における伝統や文化に関する教育に着目した授業実践	聖和学園短期大学 聖和学園短期大学	○中島恵 山本信
PB017	保育者養成校におけるピアノ学習 ―ピアノ学習の動機づけに着目して（2）―	愛知学泉短期大学	本多峰和
PB018	具体美術作家がみた子どもの造形性について	倉敷市立短期大学	金山和彦
PB019	保育者養成校における教科目「保育表現技術」の授業のあり方について ―保育現場を対象とした「保育表現技術」のアンケート調査を通して―	宇部フロンティア大学短期大学部 宇部フロンティア大学短期大学部 宇部フロンティア大学短期大学部	○久光明美 弘中陽子 原井輝明
PB020	保育者養成課程における表現活動に関する研究（2）	相愛大学	曲田映世
PB021	地域の中で展開する造形活動と総合表現による実践構築 ―幼小接続とファシリテーションの一考察―	育英短期大学	渡辺一洋

ポスター発表B 保育内容と方法、授業研究など

13:00～15:00 73教室
座長：山崎敦子・鈴木純子

発表ID			
PB022	領域（健康）に関する一考察 ―身体から生活習慣の形成と動きの獲得の物語を考える―	小田原短期大学通信教育サポートセンター（仙台）	橋浦孝明
PB023	「遊び」の視座を再構築する ―playwork そして子どもの権利とスポーツの原則―	淑徳大学短期大学部	清水将之
PB024	意図・配慮・工夫に関する記録表現を培う授業研究 ―環境構成図の作成を通して―	立教女学院短期大学	野尻美枝
PB025	保育者養成における植物栽培活動の教育的意義とその効果についてⅡ ―育てて食べる体験がもたらす学生の意識の変化に着目して―	関東短期大学	塚越亜希子
PB026	幼児が自ら気付くことができる規則性・法則性に関する考察 ―領域「自然」の検討を通じて―	神戸常盤大学	大森雅人
PB027	保育における『環境』への視座を養うためのアクティブ・ラーニングのあり方に関する研究	東北福祉大学 東北福祉大学	○日野さくら 高野亜紀子
PB028	「保育相談支援」に参画した模擬養育者からの授業実践の評価	中村学園大学	笠原正洋

ポスター発表C 保育実習・教育実習、実習指導など

13:00〜15:00 73教室
座長：山崎敦子・鈴木純子

発表ID			
PC029	保育者養成校における保育実習指導者研修のあり方 〜実習指導者研修に求められる内容の検討〜	千葉明徳短期大学 湘南ケアアンドエデュケーション研究所 東京家政大学 東京未来大学 桜美林大学	○石井章仁 増田まゆみ 小櫃智子 佐藤恵 爾寛明
PC030	保育実習準備の充実に向けて	宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学	○久松尚美 東真美子 小澤拓大
PC031	養成から育成までの保育者効力感の変容	東京家政大学 東京家政大学	○齊藤加奈 細井香
PC032	保育者としての成長プロセスの検討その１ 〜保育所実習不安を規定する要因の分析（入学前〜導入）〜	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学	○細井香 小櫃智子 齊藤加奈
PC033	保育者としての成長プロセスの検討その２ 〜実習段階による子ども理解の変容（導入〜応用）〜	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学	○小櫃智子 齊藤加奈 細井香
PC034	教育実習における学生への指導内容に関する研究 ―テキストマイニングによる実習日誌の助言の分析―	郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部	○伊藤哲章 柴田卓 猪股照子 仲西真美子 三瓶令子
PC035	「学生の成長を支えるための保育者養成と保育現場の在り方（2)」 ―Ⅰ期とⅡ期の実習日誌の分析による学生理解―	山吹あさがやきた保育園 山吹あさがやきた保育園 東京家政大学	○林愛子 川島快友 前田和代
PC036	多様化する保育に即した実習日誌について	鶴見大学短期大学部 鶴見大学短期大学部	○陸路和佳 松本和美
PC037	保育・教育実習記録の内容深化に関する研究 (2)	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○橋本 信子 中村涼
PC038	障害児（者）施設での実習の不安に関する一考察 ―学生への実習アンケートからの意識調査―	富山短期大学 富山国際大学	○明柴聰史 河﨑美香
PC039	障害者支援施設の保育実習プログラムに関する研究 ―保育実習Ⅰ（施設）の実習内容からの検討―	こども教育宝仙大学 清和大学短期大学部	○松倉佳子 佐藤ちひろ
PC040	保育者を目指す学生のリスクマネジメントに関する意識調査	就実短期大学	伊藤優
PC041	「いもほり」体験を通して学生が学んだこと ―5 領域のねらいを視点として―	川口短期大学	関根久美

ポスター発表D 授業研究など

13:00〜15:00 76教室
座長:保坂遊・織田栄子

発表ID			
PD042	社会的養護を必要とする子どもへの援助理解 ―実践記録分析による学生の学び―	筑紫女学園大学	上原真幸
PD043	石巻市網地島での自然体験活動を通した児童養護施設入所児童への支援方法の検討 ―施設職員・学生・ボランティアグループ・島民それぞれの視点から―	仙台青葉学院短期大学	田中公一
PD044	ドキュメンテーションを作成する力の育成 ―栽培活動経験を通して―	神戸海星女子学院大学	森晴美
PD045	地域連携における保育ボランティア ―画像で見る子ども、学生の成長と保育実践力の育成―	星槎道都大学	吉江幸子
PD046	運動遊びに含まれる動作についての一考察 ―保育者養成校所属学生の作成資料から―	川口短期大学	小山内弘和
PD047	動画作成を通しての表現活動	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○丸井理恵 笠川武史 加藤達雄
PD048	保育・教職実践演習における力量形成の検討	淑徳大学 淑徳大学 淑徳大学 淑徳大学	○槇英子 齊藤崇 桃枝智子 當銀玲子
PD049	保育実践演習Ⅱにおける「卒業制作発表」の実践報告	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○笠川武史 丸井理恵 加藤達雄
PD050	保育者養成校で学ぶ学生が作成したサウンドマップの分析	北九州保育福祉専門学校・福岡県立大学大学院人間社会学研究科 福岡県立大学	○金子珠世 池田孝博
PD051	弾き歌いにおけるコード伴奏の指導研究（2）	聖和短期大学 聖和短期大学 聖和短期大学	○持田葉子 髙田正久 山内信子
PD052	弾き歌い伴奏の習得過程におけるコード伴奏法の意義と課題	東京都市大学 東京都市大学 東京都市大学 東京都市大学	○上野彩子 安藤郁子 江口久美子 小寺洋子
PD053	「総合表現演習」科目における実践報告（6）	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○加藤達雄 笠川武史 丸井理恵
PD054	領域表現における読譜力育成の試み ―音楽Ⅰ（声楽）における授業実践を通して―	名古屋柳城短期大学	内山尚美

ポスター発表E 地域子育て支援､保育をめぐる今日的課題など

13:00～15:00 76教室
座長:保坂遊･織田栄子

発表ID			
PE055	これからの保育ソーシャルワークのあり方 ―保育現場での活用に向けた検討―	相愛大学 神戸常盤大学 大阪大谷大学 大阪成蹊短期大学 大阪成蹊短期大学	○直島正樹 橋本好市 河野清志 谷俊英 向井秀幸
PE056	子どものアサーションを育成する方法の分析	広島大学	髙橋均
PE057	保育所における乳児保育の現状と課題	名古屋短期大学 桜花学園大学非	○小島千恵子 市野繁子
PE058	保育園と地域連携に関する研究 すきっぷ保育園の事例その１	常葉大学	駒井美智子
PE059	保育者養成校の保育・子育て支援活動「さくらんぼ」における学生の学び ～活動計画に焦点をあてて～	共立女子大学大学院 共立女子大学	○安部久美 小原敏郎
PE060	子どもの理解と援助の専門性を活用した子育て支援 ―子どもの姿の伝達に関する研修プログラムを手がかりに―	十文字学園女子大学	亀崎美沙子
PE061	妊娠期から育児期の情報ニーズおよび支援ニーズに関する予備的研究Ⅳ	芦屋学園短期大学 関西福祉科学大学	○大江まゆ子 西元直美
PE062	妊娠期から育児期の情報ニーズおよび支援ニーズに関する予備的研究Ⅲ	関西福祉科学大学 芦屋学園短期大学	○西元直美 大江まゆ子
PE063	乳幼児を子育て中の母親が持つ子育て観の影響 ～子育て支援事業の利用を阻む要因についての一考察～	豊岡短期大学 東京立正短期大学	○村山久美 鈴木健史

ポスター発表A 保育者の専門性など

15:15～17:15 72教室
座長:三瓶令子・河合規仁

発表ID			
PA064	地域住民に向けた地域ソングの普及活動過程とその学び 地域型保育教材の活用に向けた基礎的研究（4）	大東文化大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学短期大学部 東京未来大学 和光大学	○岩﨑淳子 金玟志 春日保人 及川留美 粕谷亘正
PA065	家庭との連携に関する保育者養成教育の検討 ―保育者対象インタビューと養成課程等の改定を踏まえて―	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 神戸大学大学院人間発達環境学研究科	○清山莉奈 北野幸子 古賀志津香
PA066	保育所における在園児童の保護者に対する支援 2	秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学	○北澤明子 志濃原亜美 浅井拓久也
PA067	保育者による障害児の保護者支援の内容 ―ソーシャルサポートの観点からの類型化―	岡崎女子大学 中部大学	○岸本美紀 武藤久枝
PA068	保育系学生の自閉スペクトラム症（ASD）特性の理解	群馬医療福祉大学	川端奈津子
PA069	障害児者施設に就職した学生の進路変更に対する養成校の関与 ―計量テキスト分析を用いて―	川口短期大学	丹羽健太郎
PA070	保育者を目指す学生の就職不安に関する一考察 ―就職決定時期による比較―	鶴川女子短期大学 共立女子大学大学院	○相澤京子 安部久美
PA071	保育者採用試験を通してみる保育者像 ～試験内容の分析と保育現場への聞き取り調査から～	千葉明徳短期大学 静岡産業大学	○伊藤恵里子 田中卓也
PA072	保育者養成におけるキャリアイメージの段階的構築に向けた教育プログラムの検討（2）	聖和学園短期大学 東北生活文化大学短期大学部 東北福祉大学	○上村裕樹 三浦主博 利根川智子
PA073	保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラムの開発 (3)	東北生活文化大学短期大学部 聖和学園短期大学 群馬大学 聖霊女子短期大学	○三浦主博 上村裕樹 音山若穂 織田栄子
PA074	保育科学生における「環境」概念の形成 ―実習と実習指導の往還の視点から―	山梨学院短期大学 山梨学院短期大学 山梨学院短期大学	○田口賢太郎 青柳宏幸 中込まゆみ
PA075	保育者・子ども・保護者を大事にする園運営 ―園長・管理職へのインタビューから見えてきたこと②―	茨城大学 茨城キリスト教大学 常磐短期大学	○神永直美 中島美那子 木村由希
PA076	幼児の運動発達に即した身体表現に関する研究 ―運動会の事例からの考察―	日本女子体育大学 日本女子体育大学 日本女子体育大学	○森田陽子 百瀬ユカリ 諸冨満希子

ポスター発表B 保育内容と方法、授業研究など

15:15～17:15 72教室
座長:三瓶令子・河合規仁

発表ID			
PB077	カリキュラム・マネジメント作成に向けた授業実践	聖和学園短期大学 聖和学園短期大学	○石森真由子 岩淵摂子
PB078	幼児の創造的に「みる活動」をめぐる質的研究 ―造形表現分野を主軸にした考察―	小田原短期大学通信教育サポートセンター仙台	今野佳代
PB079	保育者養成における身体表現活動の援助・指導法 ―模擬保育のふりかえりを取り上げて―	白梅学園短期大学	佐藤文
PB080	模擬保育のふり返りを通して学生が獲得する改善の視点について 「幼児体育」の実践より（その 2）	日本体育大学 鶴見大学短期大学部非常勤講師 静岡県立大学短期大学部	○河田聖良 三浦美知子 朴淳香
PB081	模擬保育のふり返りを通して学生が獲得する改善の視点について 「幼児体育」の実践より（その 3）	鶴見大学短期大学部非常勤講師 静岡県立大学短期大学部 日本体育大学	○三浦美知子 朴淳香 河田聖良

PB082	サウンドマップ作成による表現活動の展開と可能性	育英短期大学	林智草
PB083	保育者養成における対話的な学びの実践Ⅰ ―子どもの造形疑似体験・鑑賞の実践から―	四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学	○香月欣浩 山田秀江
PB084	保育者養成における対話的な学びの実践Ⅱ ―子どもの遊び研究を行う卒業ゼミの実践から―	四條畷学園短期大学 四條畷学園短期大学	○山田秀江 香月欣浩

ポスター発表B 保育内容と方法、授業研究など

15:15～17:15 73教室
座長:石森真由子・伊藤哲章

発表ID			
PB085	教職実践演習における幼稚園年長児サマースクールの企画と実践	名古屋柳城短期大学 名古屋柳城短期大学	○野田さとみ 野崎真琴
PB086	保育者養成における対話型アプローチを用いた取り組みについて ―施設実習の振り返りにAIミニ・インタビュー―を取り入れた一実践(2)―	聖霊女子短期大学 東北福祉大学 聖和学園短期大学 群馬大学	○織田栄子 利根川智子 上村裕樹 音山若穂
PB087	幼児用自尊感情尺度の開発 ―他者評価式幼児用自尊感情尺度開発における予備調査から―	四国大学短期大学部	勝浦美和
PB088	保育園・幼稚園・認定こども園における障がい理解教育の実践の実態に関する研究	東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学	○田村知栄子 嶋崎博嗣 中原美恵 南野奈津子 田尻由起
PB089	保育者養成校の学外授業の評価に関する一考察 ―意識調査の観点から―	名古屋柳城短期大学	菊池理恵
PB090	いざこざへの関わりにおける一考察 ―保育者のいざこざ介入高低群による,子どもへの指導・学生への指導における差―	横浜創英大学	福田真奈
PB091	学習者の課題探求につながる教材の検討3 ―遊びの中で育む安全教育―	東京女子体育短期大学 東京女子体育短期大学	○土井晶子 村石理恵子

ポスター発表C 保育実習・教育実習、実習指導など

15:15～17:15 73教室
座長:石森真由子・伊藤哲章

発表ID			
PC092	保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発（1） ―研究の背景をめぐって―	秋草学園短期大学 田園調布学園大学 横浜創英大学 こども教育宝仙大学 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 流通経済大学 和光大学 横浜創英大学	○志濃原亜美 茗井香保里 福田真奈 富山大士 丸橋聡美 三好力 米原立将 韓仁愛 長谷川直子
PC093	保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発（2） ―学生のアンケートより―	田園調布学園大学 秋草学園短期大学 横浜創英大学 こども教育宝仙大学 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 流通経済大学 和光大学 横浜創英大学	○茗井香保里 志濃原亜美 福田真奈 富山大士 丸橋聡美 三好力 米原立将 韓仁愛 長谷川直子
PC094	保育所実習における中間評価の仕組みづくり ―ルーブリックを活用した実習巡回指導―	東京家政大学短期大学部 東京家政大学	○尾崎司 中村教子
PC095	養成校の実習指導に対する保育所からの期待 ―巡回指導を中心に―	東京成徳大学 白鴎大学 東京成徳大学	○善本眞弓 山路千華 坪井瞳

PC096	保育者を目指す学生の実習教育の検討① ～「気になる子ども」に関する認識について～	美作大学短期大学部	岡本美幸
PC097	保育者志望学生におけるボランティア体験を通しての学びと課題 ―保育実習との関連に注目して―	第一幼児教育専門学校	櫻井知子
PC098	保育者を目指す学生の資質と力量に関する実習教育の検討③	美作大学短期大学部 美作大学短期大学部 美作大学短期大学部	○居原田洋子 岡本美幸 奥典之
PC099	保育所・幼稚園での実習を通しての学生の意識変化に関する一考察	修文大学短期大学	鈴木順子
PC100	保育者養成校と現場が協働して行う実習を目指して（3）	相愛大学 相愛大学 相愛大学 相愛大学 相愛大学	○松島京 曲田映世 直島正樹 中西利恵 中井清津子
PC101	自ら学び続ける保育者を養成する ―養成校と保育現場の実質化を図る協働―	中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学	○野中千都 那須信樹 吉川寿美 倉原弘子
PC102	保育所実習を終えた学生自身の自己評価から見えること（2）	兵庫大学短期大学部	石川恵美
PC103	実習事後指導における振り返りを学びに繋げる一試案 ―実習事後指導の重要性について―	四国大学	兼間和美
PC104	実習指導におけるピアインタビューを活用した省察力育成の試み	東北福祉大学 聖霊女子短期大学 群馬大学 東北生活文化大学短期大学部	○利根川智子 織田栄子 音山若穂 三浦主博

ポスター発表D 授業研究など

15:15～17:15 76教室
座長:細井香・中島恵

発表ID			
PD105	ブレンデッド・ラーニングを取り入れたピアノ学習指導の試み (2) ― 学習者のアンケート調査を中心に―	東京福祉大学短期大学部	松本岳志
PD106	守子唄の教材化に向けた授業試案	京都光華女子大学	和田幸子
PD107	保育者を目指す学生の成長を促す正課外活動の展開 ―劇づくりを通した表現力・実践力の向上に焦点を当てて―	中部大学	蘇珍伊
PD108	造形表現科目におけるポートフォリオ作成による事後学修の成果	東京家政大学	保坂遊
PD109	保育者養成におけるアクティブラーニング フィールドワークを中心とした「現代社会論」での取り組みから	千葉明徳短期大学	池谷潤子
PD110	アクティブラーニングとしてのビブリオバトルを取り入れた授業実践の可能性	彰栄保育福祉専門学校	綾牧子
PD111	保育学生の「エピソード記述を基にした語り合い」に対する意識について	白百合女子大学	佐藤那美
PD112	2年制保育者養成課程における相談関連科目の連携に関する研究	京都文教短期大学 京都文教短期大学	○渡邊慶一 松田千都
PD113	「生活Ⅱ」の授業と小学校「生活科」との連続性についての一考察 ―授業の実際と学生への質問紙調査から―	四條畷学園短期大学	長谷秀揮
PD114	教養基礎科目「教養基礎演習」「教養総合演習」の実践報告	千葉明徳短期大学 千葉明徳短期大学 千葉明徳短期大学	○鶴田真二 明石現 金子重紀
PD115	科目「社会的養護・内容」と実習指導の連続性ある授業展開の検討（2）	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○潮谷恵美 鈴木晴子
PD116	保育者養成校の1年次生が「乳幼児期の学び」に対して抱くイメージ	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○中村涼 橋本信子
PD117	卒業を控えた学生によるピアヘルピングのスキルを用いた保護者対応のロールプレイングとその効果	蒲田保育専門学校	関智子

ポスター発表E 地域子育て支援､保育をめぐる今日的課題など

15:15～17:15 76教室
座長:細井香･中島恵

発表ID			
PE118	幼児の社会的スキルと体格・体力および運動有能感の関連	福岡県立大学	池田 孝博
PE119	保育園・幼稚園・子ども園における障害理解教育の実践をめぐる課題に関する研究	東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学	○田尻由起 南野奈津子 嶋﨑博嗣 中原美惠 田村知栄子
PE120	外国人の子どもの就学に関する一考察	目白大学	岡本弘子
PE121	子どもの心に響く言葉がけ ―実習で実践できる言葉選び―	群馬医療福祉大学	吉澤幸
PE122	若手保育士の就業継続支援及び離職防止に関する研究 ―就業状況の実態調査より―	就実短期大学 就実短期大学 就実短期大学	○澤津まり子 秋山真理子 伊藤優
PE123	保育者養成課程における希望進路の変化とその背景に関する検討	千葉明徳短期大学 千葉明徳短期大学 千葉明徳短期大学	○大村あかね 池谷潤子 小久保圭一郎
PE124	保育科の学びは卒業後の進路にどのように影響したか ―高校保育科・2年制専門学校・3年制専門コース併設専門学校・夜間3年制専門学校の各最終学年在学生への質問紙調査より―	白鵬女子高等学校保育福祉科・聖ヶ丘教育福祉専門学校	牛久 香織
PE125	保育士資格志望の留学生におけるキャリア形成の課題	東京福祉大学	矢野景子

日本保育者養成教育学会　第３回研究大会
広告掲載・出展のご芳名

東北福祉大学　様

郡山健康科学専門学校　様

聖和学園短期大学　様

仙台青葉学院短期大学　様

仙台幼児保育専門学校　様

郡山女子大学・同短期大学部　様

（株）ピジョンハーツ　様

（株）北大路書房　様

（株）中央法規出版株式会社　様

（株）株式会社 わかば社　様

（株）株式会社 萌文書林　様

トロル　様

学会を開催するにあたり、多大なご支援をいただきました。
心より感謝申し上げます。

２０１９年3月

日本保育者養成教育学会
会長　小川　清美

「あたりまえ」を、超えていく。

総合福祉学部
社会福祉学科・福祉心理学科・福祉行政学科

総合マネジメント学部
産業福祉マネジメント学科・情報福祉マネジメント学科

教育学部
教育学科（初等教育専攻・中等教育専攻）

健康科学部
保健看護学科・医療経営管理学科
リハビリテーション学科
（理学療法学専攻・作業療法学専攻）

通信教育部
社会福祉学科・福祉心理学科

大学院
総合福祉学研究科
（社会福祉学専攻・福祉心理学専攻）
教育学研究科

通信制大学院
総合福祉学研究科
（社会福祉学専攻・福祉心理学専攻）

Gallery Mini Mori

仙台駅から徒歩3分、みんなが憩うギャラリー

仙台駅東口キャンパス内にある「TFUギャラリー ミニ モリ」では
美術品の展示の他、さまざまな企画展を開催しています。
宮城県仙台市宮城野区榴岡2-5-26　https://www.tfu.ac.jp/minimori/



東北福祉大学
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

〒981-8522　仙台市青葉区国見 1-8-1
TEL.022-233-3111（代）　http://www.tfu.ac.jp/

子どもたちの未来のために
活かせるスキルを身に付けます

こども未来学科

修業年限／2年（昼間）　定員／50名（男女）　付与される称号／専門士

【取得できる資格】
- 保育士国家資格
- 認定ベビーシッター

【併修することで取得できる資格】
- 幼稚園教諭二種免許状（国家資格）
- 社会福祉主事任用資格

※短期大学通信教育課程を同時併修することで、資格取得が可能です。

【めざす資格】
- 臨床美術士
- 幼児体育指導者検定
- 保育英語検定
- おもちゃインストラクター
- 家庭料理技能検定






◆ 併 設 学 科 ◆

介護福祉学科
修業年限／2年（昼間） 定員／40名（男女） 付与される称号／専門士

メディカルスポーツ柔道整復学科
修業年限／3年（昼間） 定員／30名（男女） 付与される称号／専門士

作業療法学科
修業年限／4年（昼間） 定員／40名（男女） 付与される称号／高度専門士

理学療法学科
修業年限／4年（昼間） 定員／80名（男女） 付与される称号／高度専門士

学校法人こおりやま東都学園

厚生労働大臣指定　保育士・介護福祉士・柔道整復師・作業療法士・理学療法士 養成校

郡山健康科学専門学校

学校長　渡辺　信英

〒963-8834　福島県郡山市図景2-9-3
TEL　024-936-7777
FAX　024-936-7778
URL　http://www.k-tohto.ac.jp
E-mail　info@k-tohto.ac.jp

未来をここから。「社会力」と「人間性」を育む

聖和学園短期大学

キャリア開発総合学科 ・ 保育学科



〒981-3213 仙台市泉区南中山五丁目5番2号

TEL 022-376-3151

URL http://www.seiwa.ac.jp

FAX 022-376-3155

仙台青葉学院短期大学
Sendai Seiyo Gakuin College

ビジネスキャリア学科　看護学科　リハビリテーション学科　こども学科
歯科衛生学科　栄養学科　観光ビジネス学科　現代英語学科

こども学科
Department of Child Studies

2年制 定員100名 男・女

「子どもが好き」という気持ち。
それが、子どもたちの「生きる力」を培う保育士・幼稚園教諭の根本であると考えます。
仙台青葉学院短期大学 こども学科では、学生の「気持ち」を保育者・教育者としての力量へと醸成させるために、多くの実践的な学びの機会を用意しています。



姉妹法人
社会福祉法人 北杜福祉会

北杜学園の姉妹法人である北杜福祉会が運営する2つの保育園とこども園で、実習とボランティア活動を継続して行うことができます。


西多賀チェリー保育園


泉チェリー保育園


泉第2チェリーこども園

お問い合わせ先

広報センター ▶ 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-7-22 中央6号館 2階
sg-kouhou@seiyogakuin.ac.jp　https://seiyogakuin.ac.jp　022-217-8885

ジブン
ジシン
革命。

学校法人 曽根学園

仙台幼児保育専門学校

〈厚生労働省指定 保育士養成校〉〈文部科学大臣認定 職業実践専門課程 設置校〉

仙台幼児メソッド「ジブン-ジシンプログラム」で
自信と自立を兼ね備えた保育者を目指す

3年課程	幼児保育科
2年課程	こども保育科

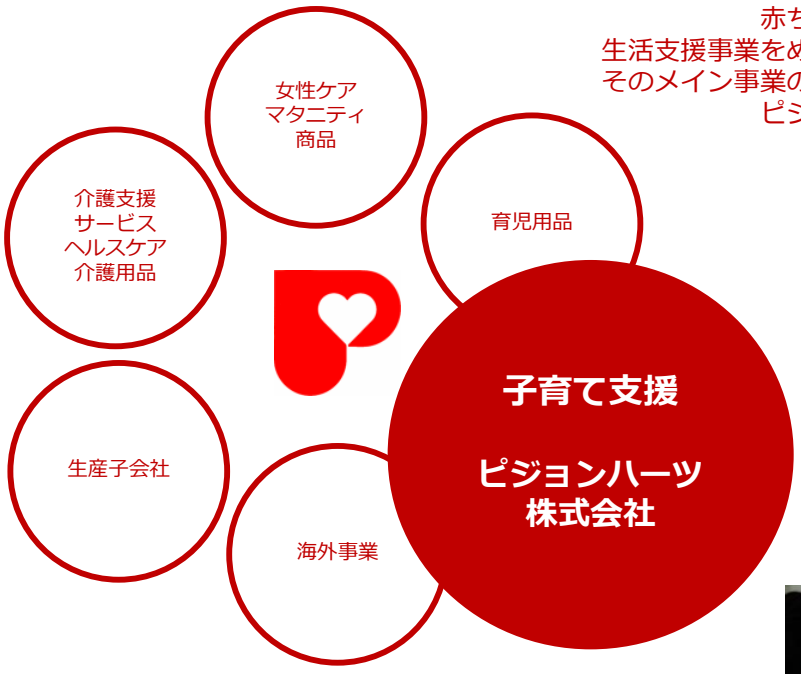
自分のなりたい「せんせい像」によって学科を選択

〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-39
フリーダイヤル：0120-707160　http://www.sendai-yoji.ac.jp/



郡山女子大学 | 郡山女子大学短期大学部 | 郡山女子大学附属高等学校

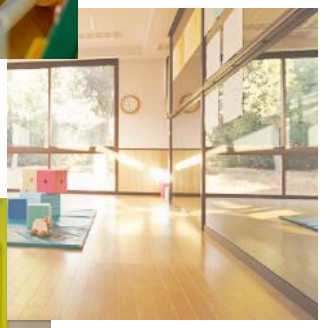
理事長・学長　関口　修　〒963-8503 福島県郡山市開成3丁目25番2号 TEL.024-932-4848（代表）



赤ちゃんからご高齢者まで
生活支援事業をめざすピジョングループ
そのメイン事業のひとつが、子育て支援
ピジョンハーツの仕事です









赤ちゃんは生まれた瞬間から
おっぱいを吸おうとします。

教えなくても、¨生きていく力¨
すなわち¨育とうとする力¨があるんです。

その¨自ら育とうとする力¨を
育てる、引き出す、サポートする、促す。

それこそが子どもたちに対する
私たち保育者としての関わり方だと思います。

子どもたち一人一人の発達段階を理解し、
子どもたちが¨自ら育とうとする力¨を
安心と信頼に満ちた環境で
愛情を持って育てていく。

それが私たちピジョンハーツの
「保育理念」です。



「育つ力」を育てる



【本社】
東京都中央区日本橋久松町4-4

【業務内容】
企業内保育所・院内保育所・認可保育園・
東京都認証保育所・イベント保育・幼児教室の企画・
運営受託、コンサルティング、研修事業

【お問合わせ先】
✉ ph-saiyou@pigeon.com
💻 https://pigeonhearts.co.jp/
採用💻 https://pigeonhearts.co.jp/recruit/
☎ 03-3661-4290

ピジョンハーツ株式会社

PIGEON HEARTS

北大路書房

〒603-8303　京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361　FAX 075-431-9393
http://www.kitaohji.com

子ども学がひらく子どもの未来【仮題】

ー2019年春刊行予定！ー　稲垣由子・内藤由佳子・上田淑子編著　A5・約232頁・予価2500円＋税　子ども学は学際的に子どもを捉える学問である。子どもをどのように捉えるか，子ども問題をどう解決するか，「モノ」と「コト」のデザインを子どもの立場で考える，という3つの視点から考えるとともに，「子ども学」の目指す将来像を提起する。

北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア教育【仮題】

ー2019年春刊行予定！ー　西浦和樹他著　B5・約144頁・予価2000円＋税　幼児期～児童期までアウトドア教育が確立し，森林や海での遊びや活動を通して，国語，算数，科学などの教育が行われているスウェーデン。本書は，自然体験の中で，科学する心をどのように育むか，豊富な写真や実例とともに有効なエクササイズを紹介する。

子どもの育ちをとらえるラーニング・ストーリー

ーいつでも，どこでも，だれでもできる観察・記録・評価ー　宍戸良子・三好伸子著　B5・160頁・本体2200円＋税　NZ発の子ども理解の方法であるラーニング・ストーリー。観察・記録・評価することで，保育者間あるいは保護者との間で成長の共有を可能にする。さまざまなパーソナリティのキャラクターと共に体験的に学ぶことができるワークブック。

発達心理学15講【仮題】

ー2019年刊行予定！ー　高橋一公・中川佳子編著　A5・約224頁・予価2200円＋税　公認心理師カリキュラムに準拠，あるいは公認心理師試験出題基準ブループリントを網羅するかたちで好評テキストを改訂。ヒトの誕生から死までの発達プロセスを15の講義に分けて，「発達心理学」のミニマム・エッセンスをまとめる。

キーワード　子ども理解と心理援助

ー2019年春刊行予定！ー　中島義実著　B5・160頁・本体2200円＋税　パーソナリティ，発達臨床，心理アセスメント等，教職で必要となる基礎知識を概説。採用試験対策で重要なキーワードを明示。子どもや保護者との間で有効な対話技法など，現職教員の実践にも役立つ内容を取り扱う。「生徒指導提要」及び「教職課程コアカリキュラム」に対応した一冊。

北欧スウェーデン発　森の教室

ー生きる知恵と喜びを生み出すアウトドア教育ー　A.シェパンスキー他編著　西浦和樹・足立智昭訳　A5・232頁・本体2500円＋税　大自然を教室に見立てた体験型の環境の中で，学習の基礎を育み，教科書中心の教育を補完。保育や教育の方法を実践的にガイド。健康促進やストレス軽減，集中力の向上等の効果もエビデンスをもって示す。

子どもの未来を育む保育・教育の実践知

ー保育者・教師を目指すあなたにー　神戸松蔭女子学院大学　子ども発達学科著　寺見陽子編集　A5・244頁・本体2300円＋税　乳幼児期，児童期の子どもの理解と援助，豊かな表現力を育てる教育，個別性に応じた援助・教育を考える。豊かな育ちを支える「実践家」になるための専門性と裁量についてまとめ，新たな実践知の構築へ繋がる機会を提供する。

心理学ベーシック 第4巻 なるほど！心理学観察法

三浦麻子監修　佐藤　寛編著　A5・232頁・本体2200円＋税　現実に即したデータを収集できる研究法であるが，心を直接見ることは難しい。心の動きや働きを知るためには，行動を観察することとなる。本書では，科学的観点からデータを収集し，整理・分析して報告するための理論と技法を解説。目指すゴールを描きながら学べるように，実例も幅広く紹介。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事〔全20巻〕

シリーズ監修　太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2000～2600円＋税

1　感覚・知覚心理学	2　神経・生理心理学	3　認知心理学	4　学習心理学	5　発達心理学
6　高齢者心理学	7　教育・学校心理学	8　臨床心理学	9　知能・性格心理学	10　社会心理学
11　産業・組織心理学	12　健康心理学	13　スポーツ心理学	14　福祉心理学	15　障害者心理学
16　司法・犯罪心理学	17　環境心理学	18　交通心理学	19　音響・音楽心理学	20　ICT・情報行動心理学

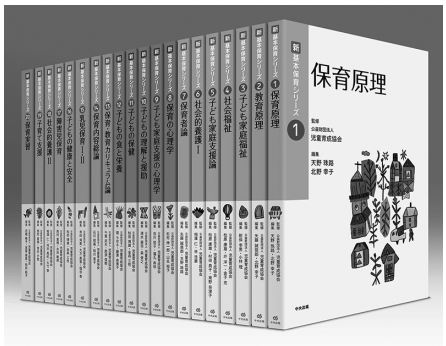
新しい保育士養成課程に対応した
スタンダードテキスト!

新 基本保育シリーズ 全20巻

5780

監修:公益財団法人 児童育成協会
B5判／2色刷　セット定価41,000円(税別)

2019年4月から施行される新しい保育士養成課程の目標と内容をふまえ、保育士として必要な知識と技術を網羅しました。今後さまざまな場で活躍が期待される保育士の養成と、さらなる質の向上に貢献するためのテキストシリーズ!



★2019年2月より順次発行

巻	タイトル	編集
1	保育原理	天野珠路、北野幸子
2	教育原理	矢藤誠慈郎、北野幸子
3	子ども家庭福祉	新保幸男、小林 理
4	社会福祉	松原康雄、圷 洋一、金子 充
5	子ども家庭支援論	松原康雄、村田典子、南野奈津子
6	社会的養護Ⅰ	相澤 仁、林 浩康
7	保育者論	矢藤誠慈郎、天野珠路
8	保育の心理学	杉村伸一郎、山名裕子
9	子ども家庭支援の心理学	白川佳子、福丸由佳
10	子どもの理解と援助	清水益治、森 俊之
11	子どもの保健	松田博雄、金森三枝
12	子どもの食と栄養	堤 ちはる、藤澤由美子
13	教育・保育カリキュラム論	千葉武夫、那須信樹
14	保育内容総論	石川昭義、松川恵子
15	乳児保育Ⅰ・Ⅱ	寺田清美、大方美香、塩谷 香
16	子どもの健康と安全	松田博雄、金森三枝
17	障害児保育	西村重稀、水田敏郎
18	社会的養護Ⅱ	相澤 仁、村井美紀、大竹 智
19	子育て支援	西村重稀、青井夕貴
20	保育実習	近喰晴子、寅屋壽廣、松田純子

中央法規 Chuohoki Publishing Co.,Ltd.
中央法規出版株式会社
〒110-0016 東京都台東区台東3-29-1
TEL.03-3834-5817 FAX.03-3837-8037

保育内容 領域

表現

日々わくわくを
生きる子どもの表現

堂本真実子 編　本山方子　田代幸代

本書は、保育内容・領域「表現」を、保育実践の立場から考え、子どもの具体的な事例をあげながら、その表現についてのとらえ方、保育者の援助、環境の構成、背景にある指導計画について解説しています。巻頭にはフルカラーの写真から子どもの表現の世界を紹介し、また、各所にフォトトレーニングの課題も掲載した新教育要領、保育指針、教育・保育要領に対応した新しい「表現」テキストです!





巻頭カラー32頁口絵付

最新刊

B5判 168頁
定価 本体 1,800円+税



新指針、要領、教育・保育要領 全文掲載!

改訂版

Workで学ぶ 保育原理

佐伯一弥（企画・著）　金 瑛珠（編集・著）　鈴木彬子　高橋優子

最新改訂版!!
自ら考え、調べて書き込む!
自分だけの保育原理テキストで学ぼう!

定価　本体 1,600 円+税　B5判　160 頁

※本書掲載の課題の解答は書籍内にはありません。

2017 年 3 月告示「教育要領」「保育指針」「教育・保育要領」対応した改訂書籍　続々　発刊中!

わかば社
〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-46-12-202
電話：03-6905-6880 FAX：03-6905-6812
[e-mail] info@wakabasya.com
[URL] https://www.wakabasya.com
わかば社 facebook もご覧下さい!

日本保育者養成教育学会　第３回研究大会

実行委員会

委員長：和田　明人（東北福祉大学）

委　員：小坂　　徹（東北福祉大学）

委　員：君島　昌志（東北福祉大学）

委　員：青木　一則（東北福祉大学）

委　員：利根川智子（東北福祉大学）

委　員：高野亜紀子（東北福祉大学）

委　員：千葉　伸彦（東北福祉大学）

委　員：日野さくら（東北福祉大学）

委　員：学生　一同（東北福祉大学）

大会運営事務局

名鉄観光サービス株式会社　仙台支店（担当：志賀・植松）
〒980-0021　宮城県仙台市青葉区中央４丁目10－3　仙台キャピタルタワー6階
TEL:022-227-3611　FAX:022-261-4623　E-mail:hoikusyayousei@mwt.co.jp

【日本保育者養成教育学会について】



日本保育者養成教育学会は、一般社団法人全国保育士養成協議会における研究活動を前身とし、平成 28 年 3 月 22 日に発足しました。本学会の特徴は、保育者養成教育に関する研究活動を、研究者のみならず幼稚園、保育所、認定こども園その他さまざまな施設の保育者による協働によって進めていく点にあります。昨年 3 月、共立女子大学において第２回研究大会が開催され、第 1 回大会（白百合女子大学）にもまして、活発な議論が交わされました。本学会は、研究者と保育実践の場で活躍する保育者が、互いの特長を活かし、「未来を支える保育者」養成について考え続けます。

（学会 HP（URL：http://www.h-yousei-edu.jp/）もどうぞご覧ください。）

日本保育者養成教育学会第３回研究大会　プログラム・抄録集

発行日：２０１９年３月

発行者：日本保育者養成教育学会

印　刷：名鉄観光サービス株式会社　仙台支店

表紙・裏表紙デザイン：青木　一則（東北福祉大学）